

三里浜(福井県)砂丘地帯の

花らっきょうと肥料

福井県農業試験場野菜科長

森 義 夫

福井の花らっきょうは、坂井郡三国町を中心とする三里浜砂丘地帯に栽培されているが、らっきょうを主作としている点では、全国の砂丘地でも特徴的であり、約600haの砂丘畑のうち、300haにらっきょうが作られている。

花らっきょうの由来と沿革

この地方では、明治の初期から栽培されてきたといわれるが、とくに産地の特色としてあげられることは、生産されるらっきょうの全部が花らっきょうであり、花らっきょうとしては全国の8割がここで生産される。

花らっきょうはとくに、小粒に栽培したらっきょうの頭と尻を切捨てて丸型としたものをいい、小粒で可愛いことと、両端(ハナ)を切るところからこの名が出たといわれる。

このような小粒の花らっきょうを生産するために、わざわざ掘取を1年間延長し、植付けの翌々年に収穫している。このように丸2カ年かけて栽培した花らっきょうは、繊維が少なく歯切れがよく、食べ粕が口に残らないのが特徴である。

品 種

らくだ種の一系統と思われる「三国在来種」を栽培している。

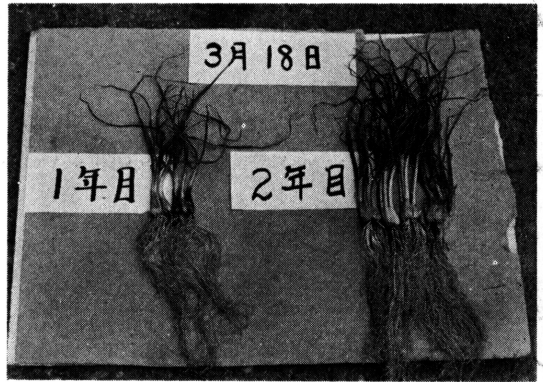
福井県農業試験場では、この福井在来種の中から、一年で小球のとれる新品種「浜4号」を選抜し、目下増殖中である。

種 球

栽培上最も重要であり、とくに根ダニのついている種球は致命的被害をこうむるので、病虫害のない圃場から選ぶ。また、種球の大きさは収量に影響が大きく、大球を用いるほど分球数が多くなり、多収となる。

種球の消毒

根ダニの被害を防ぐため、種球は必ず消毒を行なう。消毒方法は、ジメートエート乳剤の2,000



1年目と2年目の比較

倍液に10分間浸すことによって、種球に附着している根ダニは完全に駆除出来る。

土 質

らっきょうの生産力は、壤土や埴壤土の方が高いが、外観、色沢、緊りなどの品質は、砂丘地がすぐれている。砂丘地でも、粘土分の少ない純粋の砂地帯にとくに良品を産する。

植付時期

他県の産地では、7月下旬頃から植付けているところもあるが、この地帯では作業の都合などから、9月上～下旬に植付けている。福井県農業試験場の試験では、8月中～下旬植が最も多収であった。

植付方法

この地帯の慣行では、鋤で畦幅30cm程度に浅い植え溝を掘り、肥料を施して種球を1株2球ずつ、12cmぐらいの間隔で植付ける。植付けるとしても球を縦に挿すだけで、そのままにしておく風などによって平らになり自然に覆土される。その場合、覆土の深さは6cmくらいである。植付けが深過ぎると生育が遅れて分球が少なく、球型

< 目 次 >

§ <私はこう思う>

未来のコメ作りと、故中谷先生のアイデア…(2)
北海道立上川農業試験場土壌肥料科長 南 松 雄

§ 三里浜(福井県)砂丘地帯の花らっきょうと肥料…(3)

福井県農業試験場野菜科長 森 義 夫

§ 「鹿島ピーマンの」栽培と改善を要する点…(4)

茨城県鹿島地帯特産指導所 木 内 香

§ <林地肥培について>～(1)

林地肥培の現状とその問題点について…(6)

農林省林業試験場土壌部長 塘 隆 男